

畜産環境アドバイザーのひろば

「たい肥の達人」と「スカイウォッチャー」について

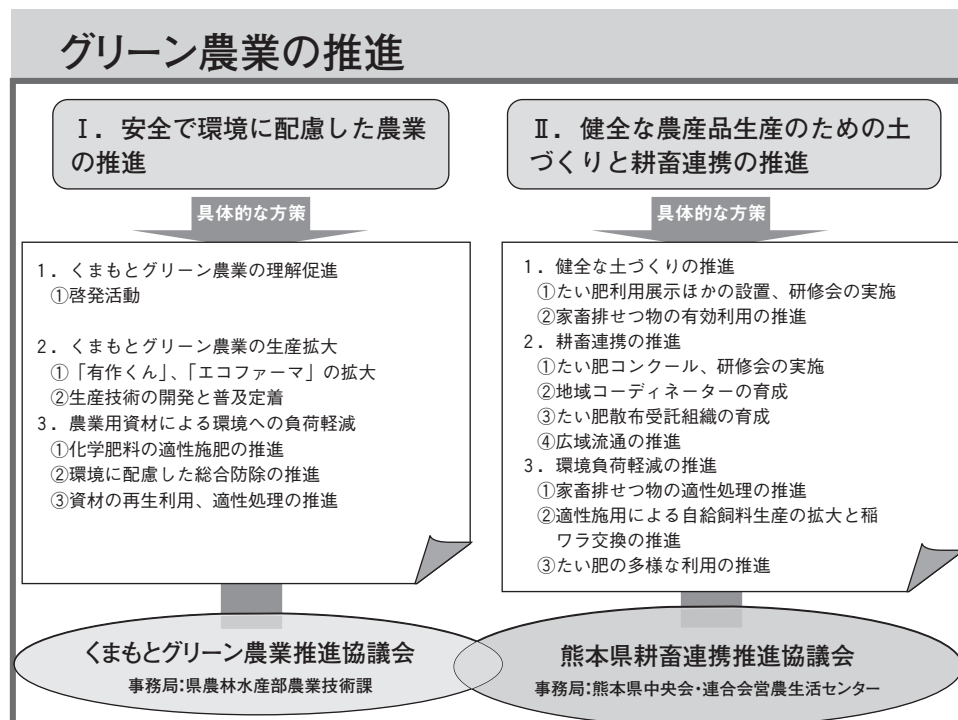
熊本県農林水産部畜産課

参事 大村 誠

熊本県では、平成17年度に農業計画を策定し、下図のとおり「Ⅰ. 安全で環境に配慮した農業の推進」「Ⅱ. 健全な農産品生産のための土づくりと耕畜連携の推進」を柱にグリーン農業を推進しています。

その具体的な取組みとして実施している地域コーデ

ィネーターの育成「堆肥の達人」制度及び家畜排せつ物の適正処理の推進の一環としての取組んでいる上空からの監視活動「スカイウォッチャー」について紹介します。



1. 「堆肥の達人」

家畜排せつ物の適正化処理の促進に伴い、大量のたい肥が畜産農家から生産されており、たい肥の利用拡大が喫緊の課題となっています。

一方、平成9年度から取り組んでいる「たい肥共例会(コンクール)」は、既に10年を経過し、当初から参加している団体や個人は、高品質たい肥を継続的に生産しており、たい肥共励会に参加する意義が薄れつ

つあります。

このため、たい肥共励会に継続して参加し、高品質たい肥を生産している団体職員や個人について、良質たい肥生産や利用について科学的知見を有している者を「たい肥の達人」として認定し、地域コーディネーターとして堆肥製造技術を指導いただくこととしました。

(1) 実施主体 熊本県耕畜連携推進協議会(H17～)

※ 熊本県耕畜連携推進協議会は、県農林水産部関係各課や農業団体で構成しています。

(2) 認定基準

- (ア) たい肥生産施設において、認定を受ける者がたい肥製造に5年以上従事し、たい肥共励会において、3年間継続して「完熟」と認められた者。
- (イ) 財団法人畜産環境整備機構や熊本県耕畜連携推進協議会・くまもとグリーン農業推進協議会（以下「協議会」という）が主催するたい肥生産に係る技術研修会を2回以上受講した者。
- (ウ) 協議会等が主催する土づくり研修会を受講して、耕種農家との連携が図れている者。

(3) 「堆肥の達人認定者」 8名（平成19年度）

平成19年度は上記認定基準を満たした8名の方が認定されました。

- 西里とれたて市堆肥生産組合
(熊本市) 古田 勇 熊 氏
- J A熊本うき健康土づくりセンター
(宇土市) 中山 茂 樹 氏

- 中央町堆肥利用組合
(美里町) 奥 村 智 昭 氏
- 菊池堆肥センター組合
(菊池市) 岩 木 憲 文 氏
- 旭野飼料生産組合
(菊池市) 吉 良 至 誠 氏
- グリーンロード平
(菊池市) 中 野 正 一 氏
- J Aあまくさ新和堆肥センター
(天草市) 松 尾 良 三 氏
- 苓北町堆肥センター
(苓北町) 若 松 徳 昭 氏

(4) 今後の予定

県下各地域における堆肥生産技術の向上を目指して、平成20年度からは「堆肥の達人」による現地検討会を実施予定です。

たい肥の達人認証マーク

たい肥 (Compost) の頭文字「C」を使い、のびる新芽を包み込む「土」を表現しています。



たい肥の達人

1. 「スカイウォッチャー」

県では、平成17年度から、畜産農家の環境への意識高揚を図り、更には県民や消費者に対して畜産環境への取り組みを理解いただくために、11月を畜産環境月間として、各種取組みを行っています。

その取組みの一つとして、上空からの監視活動「スカイウォッチャー」を実施しています。

(1) 実施主体 熊本県

(2) 実施内容

熊本県防災消防ヘリコプター利用し、上空から

家畜排せつ物の不適切処理が発生していないか監視活動を行っています。

(3) 実施効果

○現地指導：一時的な野積みが発見された場合、すみやかに関係機関と連携し指導を実施しています。

○啓発効果：事前に告知することにより法令遵守の意識が高まり、適正処理が促進されました。

